

## 2021年度 初芝立命館中学校・高等学校 学校評価

### 1 教育目標

- 確かな学力を身に着け、主体的に学び考えることのできる知的探求心にあふれた人間を育成する。
- 心も体も健全でたくましく、社会の担い手にふさわしい知性と品格を身につけた心豊かな人間を育成する。
- グローバル社会における文化の多様性を理解した上で、自分らしさを大切に、世界を視野に幅広く活躍できる人間を育成する。

### 2 中期的目標

- 1 初芝立命館のブランディング
- 2 他大学進学実績の一層の向上
- 3 立命館コースの特色化
- 4 グローバル人材育成・英語・国際教育の充実
- 5 入試においてより高い学力層の安定確保、中学入試の強化

### 3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>①学校評価について 2021年度は引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学校運営は通常時とは違った中で行わざるを得なかった。その中で、本校は入学確保、進路実績において、過去最高の実績を残すことができた。本校の教職員の努力の結果であり、教育の内容を含めて、その方向性と可能性を確認することができた。2022年度はこの実績の上に、新たな成果を積み上げていくことが求められている。特に社会や世界の情勢が大きく変化する中で、これからの世界や時代に求められる学力を再確認し、教育内容の充実が課題となる。中期的・長期的な視野に立ち、新展開を進める準備をしたい。</p> <p>②授業評価アンケートについて 中高ともに高いレベルで推移している。昨年度、実技系教科の数値が低迷していたが、今年度、顕著に向上、各項目で改善がみられる。「活用」「学習効果」の評価の改善を目指し、授業の質の向上にとどまらず、学習内容を活用することで、学習効果をあげていくことを目指す。</p> <p>③保護者アンケートについて 中高ともに「わが子を入学させてよかった」の項目において肯定的意見が昨年度から大幅に向上した。また、これまで評価が低かった「わが子は教職員に困ったことなどを相談できている」の項目が向上した。また、進路指導、キャリア教育に対する評価が向上した。</p>	<p>①委員会の体制（敬称略） 学立命館 常務理事 1名、 立命館大学教授 1名 中学校・高等学校保護者会役員 1名 地域の有識者 1名 校長、教頭</p> <p>②委員会の実施日 2022年5月16日 （※一部委員からは別日に意見集約）</p> <p>③自己評価の結果に対する評価 数年前に比べ、教育内容が充実していることを実感している。そのことが学校に対する地域や保護者をはじめ多くの方々に浸透してきた結果が好調な募集状況に表れていると思われる。総合や探究学習のさらなるレベルを上げていくこととともに基礎学力の向上を目指し、日々の授業や学校活動などにより一層力を注いでもらえると期待している。</p>

### 4 本年度の取り組みと達成状況

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1 初芝立命館のブランディング	(1) 地域、保護者、卒業生との連携の中でのキャリア形成支援	①教育講演会の実施（生徒、保護者） ②同窓会との協議会の実施 ③卒業生のデータソースの構築	①教育講演会の実施数 ②同窓会との協議会数 ③卒業生のデータソース作成	①2回の教育講演会を実施。 ②同窓会会長との懇談実施。90周年事業に向けて準備を開始した。 ③卒業生にアンケートを実施し、データソースの準備を行った。	①時事的なテーマ設定が必要 ②緊密な同窓会との連携 ③データベースの完成を目指す。
	(2) グローバル教育推進校としての位置づけ	①海外大学進学説明会の実施 ②中1～高1までの英語キャンプ実施 ③中長期留学プログラムの実施 ④留学生の受け入れ	①説明会の実施数と海外大学進学者数 ②英語キャンプの実施 ③中長期留学プログラムの実施 ④留学生受け入れ数	①説明会（2回）を実施。海外の卒業生とオンラインでつなぐなど、効果的な説明会が実施された。マンチェスター大学をはじめとする海外大学進学者数が3名に増加。 ②コロナ禍であったが、すべて対面での実施ができ、生徒の積極的な参加があった。 ③1名がカナダへ4か月留学 ④タイからの留学生1名を迎え、活発な生徒との交流が図られた。	①教員向けの海外大学進学セミナーを実施し、教員の意識改革を図る。 ③With コロナ禍の中で可能な英語キャンプの実施を目指す。

	(3) ICT 活用による先進的授業展開	① Groovenautes との AI/IT プログラミング授業実施 ② 土曜講座におけるプログラミング授業実施 ③ デジタル採点活用による校務の効率化。	① AI/IT ワークショップ ② 土曜講座の申し込み状況 ③ デジタル採点業者確定	① 中1高1で実施。生徒のAIに対する意識向上が図られた。 ② 約40名がプログラミング授業を受講。プログラミングの基礎知識向上がはかられた。	教科におけるICT活用を目指し、研修などを実施していく。
	(4) 新学習指導要領改訂に則した探究型授業実践	① 新課程委員会の設置 ② 探究型授業実施	① 委員会の開催数 ② 探究授業の実施	① コースの特色を前面に出したカリキュラム作成完了。 ② 環境教育、法教育、2025万博プログラム、平和、宇宙技術などをテーマに実施	② 全学年で探究教科書導入。計画的な実施を目指す。
	(5) 6か年プログラムの構築	6か年プログラム協議委員会設置	6か年プログラム協議委員会の進捗状況	理念、テーマの立案。	道徳との連携を目指し、初立独自のプログラムを立案。
2 他大学進学実績の一層の向上	(1) アドバンスト英数コースの戦略的学力向上	① 進路部体制強化 ② 主要3教科縦持ち体制 ③ 模試結果に基づく補習体制	① 適切な人員配置 ② 効果的な人員配置 ③ 進学補習体制	① 各学年のアドバンスト英数コース担任を進路部に配置した。 ② 主要3教科担当者をアドバンスト英数コース縦持ちで配置 ③ 来年度に向けて進路指導部で新たな進学補習体制を立案。	平常授業、土曜講座、放課後講座の有機的連携を目指し、学力向上を目指す。
	(2) 国公立大学合格実績の向上と中堅大学から関関同立レベルへの受験層の引き上げ	① 国公立大学合格者増 関関同立合格者増 産近甲龍合格者増 ② 進路指導に必要な知識・経験の共有 ③ 模試分析会・考査検討会実施	① 合格実績の向上 ② 模試分析会開催回数 ③ 校内教員対象研修会企画数、外部説明会回数など	① 国公立大学22名(学校推薦・総合型選抜7名含む)、関関同立54名、産近甲龍206名と合格者大幅増となった。 ② 計2回(ベネッセと国公立大学教員)研修会を開催 ③ 各学年各学期の模試においてベネッセ担当者による分析報告会を実施。	国公立学校推薦、総合型推薦の受験者数のより一層の増加を目指す。
	(3) 進路指導部主導による受験指導体制の構築	① 総合型選抜・自己推薦型選抜受験指導 ② 出願検討会の実施 ③ 進路ガイダンス実施	① 小論文・面接・志望理由書書き方講座の開催 ② 総合選抜型入試出願者数推移、合格実績 ③ 進路ガイダンス開催数	① 推薦入試説明会55名、小論文指導講座34名参加。 ② 出願者大幅増となり、最終的に総合選抜型入試において、7名が国公立大学、19名が私立大学に合格。 ③ 生徒、保護者向けガイダンス計2回実施し、入試形式やスケジュールなどについて説明を行った。	研究会、勉強会を充実させ、教員の進路指導力のより一層の向上をはかる。
	(4) 上位大学指定校推薦枠の確保	① 大学訪問 ② 大学説明会への参加	① 大学訪問数 ② 説明会参加者数	① コロナ禍のため実施できず。 ② 各校担当者に本校を訪問依頼し、情報収集を行った。	効果的な指定校推薦枠確保に向けてより正確な情報収集が必要。
3 立命館コースの特色化	(1) 学力上位層の伸長、下位層の引き上げ	① 数学月例テスト実施 ② 英数補強講座実施	検証試験推薦基準(6割)を10月までに全員到達、追課題基準(7割)を12月までに全員到達。	検証試験6割基準100%到達。7割基準:国語100%、数学96.7%、英語91.1%。英語はTOEFL講座の効果あり、7割基準が過去最高となった。	検証テストや推薦枠にとらわれることなく、大学の学びに向けて取り組ませることが課題。
	(2) 理系コースの特色化	① プログラミング講座実施 ② 理系特別プログラム実施 ③ R Career Week(高1, 2)実施	① 理系カリキュラム履修者50%以上、理系学部選択が推薦枠の80%満たすこと ② 模試の数学で偏差値50以上	① 現高2(新高3)51.6%が理系カリキュラム履修。 ② 高2数学偏差値目標値クリア。特に理系クラスでの偏差値向上が見られる。	理系学部進学者増に向け、理系の学びへの興味関心を持たせる仕掛けが必要。
	(3) 中高大との連携プログラム	① ライスボールセミナー実施 ② 高大連携事業実施	① ライスボールセミナー実施数 ② 高大連携事業実施数	① 中2、高1, 2において計3回実施。理系学部の研究に対する興味付けを行った。 ② 対面とオンラインにてすべて実施。生徒の立命館大学への進学意欲の向上につながった。	APU進学増を目指し、保護者向けAPUツアーを実施予定。

	(4) 探究型授業の展開、プレゼンテーション力、論理的文章力の強化	①数理ゼミ (高1, 2理系クラス) ②小論文講座 ③551 英語 TOEFL 講座 ④Global English Camp	①数学模試偏差値 ②志望理由書 ③TOEFL ITP 500 超え生徒数、GTEC スコア> 全国平均 ④生徒アンケート	①理系クラス数学偏差値の顕著な向上が見られる。 ②志望理由書作成において効果的な指導であった。 ③TOEFL ITP スコアに堅調な伸長が見られる。GTEC 高3平均が全国平均を上回り、全体的な英語力の向上が見られる。 ④APU の国際学生が来阪できなかったため、国内留学生を配置しての実施となったが、70%以上の生徒が英語力向上したと答え生徒のモチベーションアップの機会となった。	①探究型理系授業の充実を図る。 ③全体的な英語力の伸長は見られるが、トップ層の引き上げが必要。
4 グローバル人材育成・英語・国際教育の充実	(1) 中高 English Camp	中1~3English Immersion Camp 実施 高1 Global English Camp の実施	英語検定準2級の合格率70%を目指す。またGTEC スコア 65%到達を目指す。	「英語力の向上実感」「海外への興味関心度の向上」などプログラム全体への満足度は81%となった。英語への積極的な学習意欲の向上は見られ、英検の合格率は向上。	英検合格率向上が喫緊の課題。
	(2) 中学での英検準2級合格率向上	①土曜講座における英検講座実施。 ②E4 Skills のアプリ積極的活用	英検合格率の向上	中学全体準2級合格率は向上したが、7割到達には至らなかった。中2では既に5割が準2級合格。	・中3準2級合格率70%達成に向けて対策要。 ・日本人教員とNative 教員との授業連携を図り、英語力向上プロジェクト立案。PBLベースのシラバス作成。
	(3) ネイティブ教員による習熟度別授業	コース内の習熟度別クラス授業実施	GTEC スコア推移 AR 65%以上 5割	目標値到達生の増加が見られるが、上位層と下位層の開きが大きいことが課題。	
	(4) 留学生との交流、海外研修、留学制度整備	①留学生の受け入れ ②海外研修の実施 ③中長期留学プログラムの実施	①留学生受け入れ数 ②海外研修実施状況 ③中長期留学プログラム参加生徒数	①AFS よりアジア架け橋生としてタイよりの留学生1名受け入れ ②コロナ禍のため実施できず ③中期留学カナダ4か月プログラムに1名参加。	新たに学校独自の長期留学プログラムを開始する。
	(5) オンライン英会話、4技能5領域型授業実施	①中3、高1対象オンライン英会話実施 ②土曜講座内における英会話授業実施。	学力推移テスト英語成績の向上	AR コースにて偏差値向上がみられる。	今年度より朝読において英語多読活動を開始。Reading 力の向上を目指す
5 入試においてより高い学力層の安定的確保、特に中学校入試の強化	(1) 学校情報発信強化	①HP 更新回数増加	HP 更新数	更新数100回。活発な学校情報発信に取り組んだ。	学校案内とHPを有機的に活用し、学校情報発信に努める。
	(2) 塾と連携した募集活動強化	①塾訪問、説明会実施	①塾訪問回数 ②説明会参加者数 ③プレテスト受験者数	①コロナ禍の中1000件の訪問達成。強固な関係構築を努めた。 ②どの実施会も定員満了となり、非常に好評であった。 ③プレテスト受験者数前年度比180%、実受験者数81名増となった。	引き続き強固な塾との連携を図る。
	(3) 女子生徒確保に向けた広報活動	女子率向上を意識したパンフレット作成	女子生徒出願者数の増加	2022年度中高における女子出願率は昨年度比、中学0.8%、高校0.5%アップと微増となった。引き続き女子生徒確保に向けて施策が必要。	女子生徒確保に向けて、ダンス部の活躍などを全面に出した広報活動をはかる。
	(4) 高校アドバンスト英数コース定員確保	中学校訪問を通し、アドバンスト英数コースの広報活動をはかる。	アドバンスト英数コース出願者数	専併合わせて2022年度入試において、昨年度比173%アップとなった。	上位層確保に向けて、より一層の広報活動が必要。